

「編み組細工」で地域創生

人材育成や技術向上、販路拡大

三島町と台湾 工芸で協定締結へ

交流基盤に誘客目指す



国の伝統的工芸品に指定されている編み組細工

三島町は特産品で国指定伝統的工芸品の「奥会津編み組細工」による地域創生に向け、二十七日に台湾の国立台湾工芸研究発展センターともものづくりに関する友好交流協定を結ぶ。両国の技術者が知識や技術を伝え合い、工芸品の魅力向上や販路拡大につなげる。町は交流を足掛かりに奥会津地方への観光誘客を目指す。

矢沢源成町長らが二十五日に台湾を訪問し、二十七日に台北市で協定を締結する方向で調整している。

町によると、台湾はわら細工や木工細工、石細工、織物など工芸が盛んだ。町は協定締結を機に台湾との人材

※奥会津編み組細工 農閑期の仕事として、古くから住民がわらじや衣類、籠などの生活道具を作り続けてきた。町内にある縄文時代晩期(約2400年前)の集落跡「荒屋敷遺跡」から現在と変わらない技法で作られた編み組細工が見つかった。2003(平成15)年に編み組細工のヤマブドウ細工、ヒロコ細工、マタタビ細工が国の伝統的工芸品の指定を受けた。一つの作品を完成させるのに3週間を要するものもあり、大量生産が難しい一方で人気が高く、高値で取引されている。

大に向けた助言を受ける。将来的には台湾の工芸文化を取り入れたコラボ商品を開発したい考えだ。

編み組細工に励む町民は百人ほどいるが、六十歳以上が九割を超え、若い担い手の確保と技術向上が課題となっている。こうした状況を踏まえ、町内に移り住んで編み組細工を学んでいる生活工芸アカデミーの生徒や修了生にも積極的に台湾の工芸関係者と交流してもらう。

近年、JR只見線や只見川沿線の景観が人気を呼び、台湾から奥会津を訪れる観光客が増えている。こうした状況を受けて町が協定締結を持ち掛けた。

町は台湾出身の人気歌手の故テレサ・テンさんが四十年前に特別町民となった縁を糸口に今年度、台湾を訪ねて来町を働き掛ける予定。町地域政策課の鈴木庄蔵課長は「ものづくりとテレサさんの両面で台湾との交流を図り、新たな交流人口の発掘につなげたい」と話している。

交流を進める計画で、双方の工芸の担い手が年に数回程度行き来して情報を交換する。

国立台湾工芸研究発展センターは民間への技術指導に力を入れており、町側は編み組細工の魅力向上や販路拡